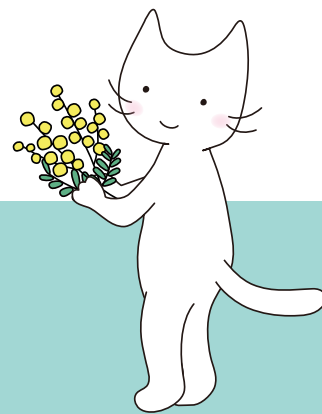


MIW通信 56

MIW（ミュウ）は、千代田区男女共同参画センターの愛称です。公募で区民から寄せられました。MIはman（男性）、WIはwoman（女性）、Iはintercommunication（情報や意見交換）の頭文字です。

2025

MIWマスコット
キャラクター
みゆうじろう



左上から 水戸部ゆうこさん、桜井なおみさん、山本香織さん。
左下から 遠藤由紀子さん、共立女子職業学校の裁縫科教室の画像、
田口香代子さん。



◇ 特集 1

がんになっても働きつづけられる社会に

インタビュー ジェンダーの視点で治療と仕事の両立支援を考える …p2
治療と仕事の両立—がんになった人を支えるために …p4

◇ 特集 2

明治の女子教育

千代田区で切り拓かれた女性の学び …p6
地図と年表で見る明治の女学校—千代田区編 …p8

がんになっても働きつづけられる社会に ジェンダーの視点で治療と仕事の両立支援を考える

30～50代の就労世代でがん罹患する割合は女性の方が高くなっており、女性の社会進出にともなって、在職中がんに罹患する女性が増えてきています。男性も女性も、がんになっても働き続けられる社会にするために、ワーク・ライフ・バランスとジェンダーの視点からどんな解決策が考えられるのか、ご自身ががんサバイバー（がん体験者）であり、がんと就労について長く活動してこられた桜井なおみさんにお話をうかがいました。

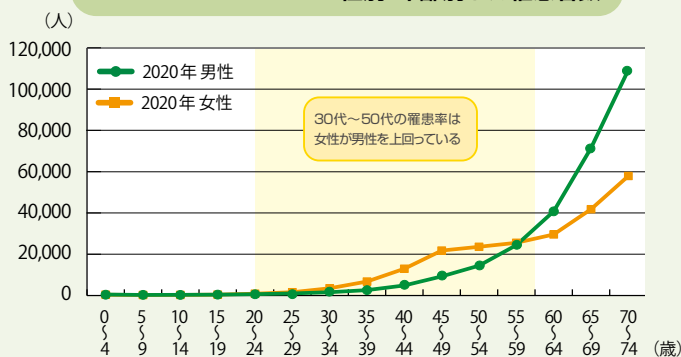
桜井なおみさん

(キャンサー・ソリューションズ株式会社代表取締役、(一社)CSR プロジェクト代表理事)

東京生まれ。大学で都市計画を学んだ後、卒業後はコンサルティング会社にてまちづくりや環境教育などの業務に従事。がん罹患後は、働き盛りで罹患した自らのがん経験や社会経験を活かし、小児がんを含めた患者・家族の支援活動を開始、現在に至る。社会福祉士、精神保健福祉士、産業カウンセラー。



がん罹患と就労のデータ① 性別・年齢別がん罹患患者数



出典：厚生労働省「全国がん登録 罹患患者数・率報告 2020年」より作成

桜井なおみさんインタビュー

がん患者の就労支援団体を仲間とつくる

2004年、37歳で乳がんを罹患して治療のために仕事を休職しました。復職後は薬の副作用や体調の変化に見舞われ2年後に退職。その頃からがん治療は通院治療が一般的になり、通院・服薬が長期化したことで、お金の問題が切実になりました。治療費のために働きたいけれど、がん患者の就労について相談する所がありません。仲間と共

にがん患者の就労を支援するCSRプロジェクトという団体を立ち上げ、社会的サポートの必要性を訴えました。さまざまな企業や機関からがんに関わる助言を求められたことから、キャンサー・ソリューションズ株式会社を設立。企業が展開する事業へのコンサルティングやがん教育のための講師派遣等の事業で患者の雇用機会を創出しています。

め、さまざまな疾病を抱えて働くための制度が整えられ、多様な働き方の選択肢が用意されてきています。中小企業では両立支援の制度の整備が充分でないところもありますが、経営者の意識や考え方で柔軟な対応ができると考えます。

制度の整備で多様な働き方の選択が可能に

2006年にがん対策基本法が制定されてからの10年間で医療は大きく進展しました。早期発見や治療方法の進歩に伴って5年生存率が上昇し、がん患者が尊厳を保ちながら安心して暮らすことのできる社会の構築の必要性が高まりました。2016年、改正が

ん対策基本法の策定では、「社会的環境の整備」という概念が盛り込まれ、「事業主の責務」についての条文で、事業主はがん患者の就労について配慮する努力義務があることが明記されたのです。

現在、大企業ではがんをはじめ

がん罹患が女性に与える影響

治療をしながら仕事を続けることが可能になってきたため、がんと診断されて仕事をやめる割合は年々低下していますが、男性に比べると女性の離職率は高い傾向にあります。がん患者を対象に罹患後の職業異動について調査をしたところ、女性は専業主婦や無職になった人が多いことがわかりました*。非正規雇用や中小企業での勤務など、女性に多い働き方が影響してい



(一社)CSRプロジェクトでは企業でのピアサポート活動を支援しています。2020年から企業向けのピアサポーター研修「WorkCAN's (ワークキャンズ)」を立ち上げ、参加者ががんの基礎知識やピアサポートのスキルを学べる場を提供。各地で研修・講演などを行っています。

最近、注目を浴びている「経済毒性」という言葉は、治療費の負担や収入の減少などで患者・家族の生活に経済的な悪影響が生じることを意味します。特に、その影響を受けやすいのは女性や若者、単身者で、治療費が払えなくて治療をスキップ／中断する人も出てきています。

治療を継続していくために経済的な問題が大きいことを踏まえ、女性の社会的自立ということがとても重要になるでしょう。それは、働いて経済的に自立するだけでなく、ケアされる立場に甘んじずに精神的に自立すること、女性の社会的地位を向上させることでもあります。社会全

体で女性の自立を後押しする価値観を育てていかなければいけないと思っています。

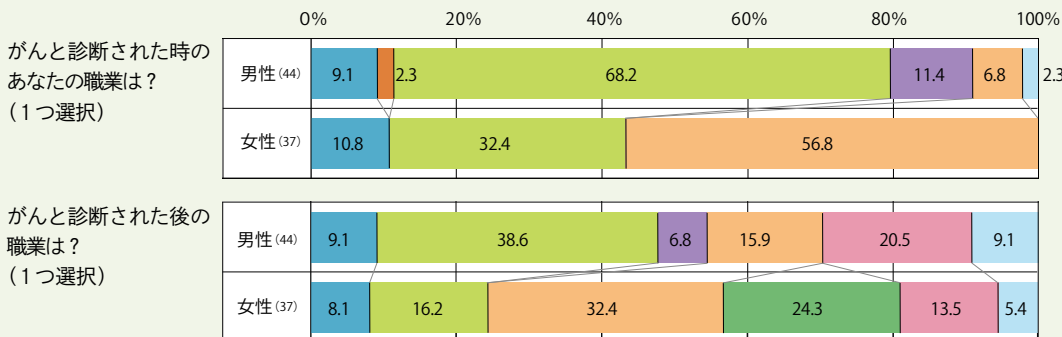
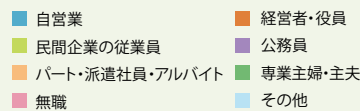
がんはダイバーシティのひとつ

がん患者には就労をはじめ、容姿の変化や結婚、出産など多くの生活課題があります。その困難は他のマイノリティの生きづらさに共通するものがあり、偏見や差別を排除して、誰もが働きやすい社会を作るために、一緒に声をあげることができないのではないのでしょうか。数の多いがん患者はビッグボイスになれるので、がんから広げて、子育ても介護も難病も障害も、「抱えながら働ける」ように変えていけるはずです。その意味でも、がんはダイバーシティのひとつだと言えるでしょう。「インク

ルーシブな社会の構築」に向けても、社会的な視点でがんなどの疾病を捉えることがますます重要になってくると考えます。

がん罹患と就労のデータ② 仕事の変化(男女別)

- ◆ 仕事の変化をみると、男性に比べて女性が顕著に変更していることがわかる。
- ◆ がんと就労は女性の働き方の課題とも関係をしている。



出典:「働く世代のがん調査(当事者編)2016」一般社団法人CSRプロジェクト

千代田区のがん患者支援

がん患者補整具購入等費用の助成

脱毛や乳房の切除など、がんの治療に伴う外見の変化に悩みを抱えている方に対し、購入やレンタル等にかかった費用を助成することにより、前向きな療養生活を送れるよう支援します。

■ 対象商品

- ウィッグ (部分ウィッグや装着用のネットを含む)
- 帽子
- 胸部補整具 (補整下着、補整用シリコンパッド、人工ニップル等)

■ 助成金額

購入やレンタル等にかかった実費 (消費税を含む、上限3万円)



申請についての詳細はこちら ▶

若年がん患者在宅療養費の助成

若年の末期がん患者の方が、住み慣れた自宅等で、安心して療養生活を送ることができるように、居宅介護サービス等の利用を助成します。

- 主治医の意見書作成
- ケアプランの作成 (居宅介護支援)
- 居宅介護サービスの利用
- 福祉用具の貸与
- 福祉用具の購入



内容・申請についての詳細はこちら ▶

治療と仕事の両立 がんになった人を支えるために

地域でがん患者のピアサポート(ささえ合い)の場を

—がんになって見えた世界からのイノベーション
肺腺がんステージ4の挑戦

ピアサポートとは、同じような境遇やよく似た体験をもつ人同士が支え合うこと。体験や感情を共有することで、がん患者やその家族などが仲間として支援する活動が広がっています。神田稲荷湯でがんサロン「Cancer おしゃべり Cafe」を主催する水戸部ゆうこさんにお聞きしました。



水戸部ゆうこさん



▲ 稲荷湯でのがんサロンの様子

がんになっても働きたい、会社とつながりたい

6年前、44歳の時に肺腺がんに罹患し、ステージ4と診断されました。子どもは当時小学5年生と2年生で、抗がん剤治療と仕事、家事・育児の両立は難しく、やむなく離職しました。2年後にがん患者を採用したいという会社と出会って短時間勤務での再就職。治療を受けながら、仕事を続けていきます。自分の体験を他の患者さんとシェアして、同じ境遇の方が出会える場が

ほしいと、2022年、地域でピアサポートを目的とした集いの場「がんサロン」を立ち上げました。

銭湯で「がんサロン」

勤務先の秋葉原社会保険労務士法人で、神田にある「稲荷湯」の息子さんと出会ったことがきっかけで、稲荷湯で「銭湯でがんサロン」をしています。年齢・性別・がんの種類を問わずにがん患者やその家族が参加し、普段、話せない病気や治療について語り合うピアサポートの居場所になっています。みんなが話しやすいように、簡単な自己紹介やその日のテーマなど、自己開示できる範囲で語ります。参加者からは「自分はひとりではないと感じられ、勇気が湧いてくる」という声があります。おしゃべりの後は、お風呂に浸かって、心も体もホカホカに。手術後の乳がん患者にとっては、温泉再デビューへ向けた気持ちのトレーニングにもなります。お風呂タイムが終わったら、一緒にランチに行って、湯上りのビールを楽しむのが恒例となりました。

届かない支援—現役世代のがん罹患の実情

患者会で親しくしていた30代の患者仲間を見送った経験があります。AYA世代*のがん患者には公的支援が抜けがちで、終末期でも在宅医療支援ありませんでした。女性は若くしてがんに罹患することが多く、長期にわたる治療の費用は切実な問題です。「経済毒性」と言われるがん治療に関わる経済的困難の心身への影響は、女性やひとり世帯、AYA世代に顕著です。特に今年から始まる高額療養費制度引き上げの影響は大きく、私自身も我が子の大学・高校進学を控えており、エンドレス治療が必要な人には、大変厳しい世の中になることに失望しています。がんの社会的な課題の解決に向けて社会全体で取り組む必要があると考えています。

今年で7年目になる抗がん剤治療を続けながら、現役世代のがん罹患の実情を伝えたという思いで、がんサロンの開催以外にも、さまざま発信しています。

* AYA (Adolescent and Young Adult) 世代とは、15歳から39歳までの思春期・若年成人世代を指す。

がんをきっかけに、安心して働ける環境づくりを

ーオンラインがんサロンの実施

治療と仕事の両立をさらに進めるために、企業内でがんを経験した社員同士が交流するコミュニティが生まれてきています。先進的な取り組みを実践する三菱ケミカルグループ（千代田区）人事部健康支援グループの保健師・両立支援コーディネーター山本香織さん（写真中央）と産業医の平良素生さん（写真右）、田辺三菱製薬株式会社人事部労務グループの保健師樽水可奈子さん（写真左）にお聞きしました。



三菱ケミカルグループ

がん患者を支える「短時間・短日数勤務制度」

三菱ケミカル株式会社では、国の両立支援ガイドブック作成や働き方改革の推進を踏まえ、2017年に両立支援に向けた取り組みをスタート。制度や支援を整備してきました。2021年には私傷病事由の「治療のための短時間・短日数勤務」制度を導入。会社が認めた期間、短時間・短日数で勤務ができるようになりました。制度・支援の詳細は「治療と仕事の両立支援ハンドブック」にわかりやすくまとめ、社員からは「有給残日数を気にしないで通院できる」「いざという時に安心」「職場で助け合える環境が大事」など、さまざまな反響がありました。

効果
めざましい「がんサロンの」

当社では2019年からが



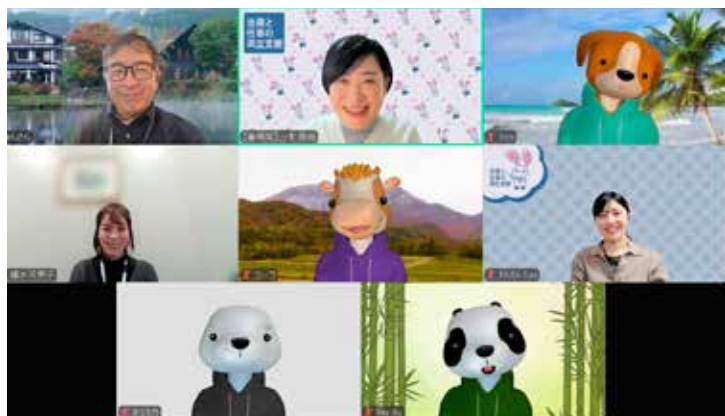
▲「治療と仕事の両立支援ハンドブック」

んに罹患した社員が悩みや経験を共有し合う「がんサロン」を開催しています。当初は参加者が限られていましたが、2021年にオンラインでの開催を始めてから、定期的に参加する社員が増え、活動に協力してくれる社員も現れました。就業時間中に参加できること、匿名、アバター画像（ネット上のキャラクター画像）で気軽に参加できるようにしたことが心理的なハードルを下げたのでしょう。参加者からは「話すことで気持ちが悪くなった」「同じ組織文化・制度であるため相談しやすい」「仕事を続けていく上での「止まり木」になった」などの感想が聞かれました。2023年からはグループ全体のがん経験者の「つながりの場」としてAll WorkCAN's*（オールワークキャンズ）というプロジェクトを開始、がんサロンのメンバーがCANバサダーになり、ピアサポートや従業員のためのがん教育に携わっています。

働く女性を応援、女性の健康課題への取り組み

「女性の健康課題」に特化し

た施策を今年度から展開しています。がんサロンでは、がんになつわる女性特有の悩みを相談できる機会を作ろうと、女性限定の回を設けました。社内向け健康の学びサイトに「働く女性応援サイト」を開設するとともに、女性の健康セミナーやEラーニングなども実施。今後も職場での女性の健康に対する理解を深め、誰もがいきいきと働ける環境づくりを目指して、Well-beingの向上に努めていきます。



▲ オンラインがんサロンの様子

*「WorkCAN's」の名称使用は一般社団法人CSRプロジェクトより許可を得ています。企業内がんコミュニティ育成事業として、各社で展開されています。

明治の女子教育

千代田区で切り拓かれた女性の学び

テレビドラマ「虎に翼」をはじめ、歴史のなかの女性の学びに注目が集まっています。明治初期に神田区・麹町区に数多くの女学校が設立され、いまも多くの女子高・女子大があるように、千代田区は女子教育の発信地でした。この特集では、千代田区で女性の学びがどのように切り拓かれていったかを振り返ります。



共立女子職業学校 教室内体操
画像：「共立女子学園の100年」より▶

女子教育の幕開け

明治政府が女学校を開設

明治5年に学制が發布され、男女の別なく小学校で学ぶように定められました。当時、西洋に渡航した知識人や官僚らが女子教育の必要性を訴え、欧米の男女同権思想が紹介されるなど、女性の学びへの期待が高まっていました。初めての官立の女学校、東京女学校が竹橋に開設（明5）、開明的な教育を行います。

江戸時代から神田・麹町

では寺子屋や私塾が開設されていましたが、維新後には女子のための私塾として、官立に先立って雉子町に芳英女塾（明4）、中猿楽町に跡見学校（明8）が開設されています。
先駆的なキリスト教系女学校
—女性宣教師たちと日本人の教え子たち

明治の女子教育に大きく貢献したのは、維新後に来日したキリスト教宣教師たちでした。女性の宣教師たちは女性の自治・自立のための教育を目指し、学びの場づくりに尽力します。さらに、そこで学んだ女性たちが日本人による

さくらい 櫻井ちか

1855(安政2)–1928(昭和3)



東京日本橋で生まれ、海軍士官の櫻井昭恵と結婚（明5）。神田の芳英社、横浜の共立女学校で英語を学び、その間に受洗しました。日本人による初めてのキリスト教主義の女学校として、櫻井女学校を麹町に設立

（明9）。牧師になった昭恵・ちか夫婦は函館に赴任（明14）、ちかは函館女子師範学校で教鞭をとりました。その後も各地のミッション系の女学校に赴任し、視察のために3回渡米しています。東京本郷にアメリカ女子教育を取り入れた櫻井女塾を開設（明31）、「女子の英語は津田か櫻井か」と言われます。ちかの死後、養女の倉辻ふきが塾長となり、櫻井女子英学塾と改名しますが（昭8）、戦時中の英語排撃の世論などによって経営が窮地に陥り、日本女子高等学院（現昭和女子大学）に合併されました（昭16）。

キリスト教系の学校づくりに乗り出しました。

築地居留地にジュリア・カロゾルスがA六番女学校を開校（明3）、ケイト・ヤングマンがB六番女学校を開校（明7）。

宣教師に学んだ櫻井ちかはキリスト教系の櫻井女学校を麹町区中六番町に開校（明9）、櫻井女学校はA六番女学校、B六番女学校の流れをくむ新栄女学校と合併して女子学院が誕生し（明23）、矢嶋楯子が初代院長となりました。

特色ある「明治女学校」

—羽仁もと子や野上彌生子を輩出

明治女学校は日本人が創設したキリスト教主義の女子教育機関で、九段下牛が淵に開校しました（明18）。木村熊二が校長をつとめ、『女学雑誌』を創刊した巖本善治が教頭となりました。津田梅子、若松賤子、内村鑑三、北村透谷、島崎藤村らが教壇に立ち、多種多様な学科・科目が揃っていました。自由と個人を重

やじまかじこ 矢嶋 楯子

1833(天保4)–1925(大正14)



肥後国津森村(現熊本県益城町)の教育熱心な家庭に育ち、儒学者横井小楠の高弟、林七郎に嫁ぎ、3人の子をもうけます。しかし、夫の酒乱が原因で離縁し、官吏となっていた兄を頼って上京(明5)、東京

府の教員養成のための講習所に入学。自立への強い思いで教員となった楯子は新栄女学校の教師を経て、櫻井女学校の校主代理となります。その間、キリスト教を受洗、東京婦人矯風会を創設して(明19)、一夫一婦制、廃娼・禁酒運動に取り組み、女子学院の初代院長となります(明23)。日本キリスト教婦人矯風会会頭となった楯子はワシントン平和会議にも出席しました(大10)。良妻賢母主義教育とは一線を画した女子学院の教育は、女性の自立を強く後押しする精神で、女子学院の理念としていまも受け継がれています。

画像：「女子学院」所蔵・提供

んじた近代的な教育を行った明治女学校から、羽仁もと子、相馬黒光、野上彌生子ら明治・大正期に活躍する知識人・活動家が生まれています。

職業教育をかかげる女学校

官立学校の教育方針が定まらないなか、明治19年、鳩山春子ら34人の発起人によって、裁縫・編物などを習得する共立女子職業学校が設立されました。技芸工作と共に、婦徳や学問も教授され、女性の社会的自立をはかるため、女性

に適した職業教育が必要であると考えたのです。

明治の代表的な教育者、下田歌子も、実践的な知識・技術を教授して自立自営しうる女性の育成を目指して実践女学校を麹町区元園町に開校しました(明32)。

高等教育を求めて

明治の半ば以降、女性にも高等教育の学びの場を求める声があがりました。女性による女性医師養成の東京女医学校が麹町区飯田町に吉岡彌生

つだうめこ 津田 梅子

1864(元治元)–1929(昭和4)



北海道の開拓使が募集した女子留学生5人の一人で、6歳にしてアメリカに岩倉具視遣外使節団とともに渡米しました(明4)。初等・中等教育を受け、帰国し(明15)、華族女学校教授になります。のちに

再び米国に留学し、プリンマー・カレッジの生物学選科生となり(明22)、帰国後は華族女学校教授に復帰し(明25)、女子高等師範学校教授を兼任しますが、職を辞して女子英学塾を創立します(明33)。官に頼らずに女性たちの高等教育機関を創設しようとした梅子は、留学生仲間山川(大山)捨松、瓜生繁子、英語教師として来日したアリス・ベーコンやアナ・ハーツホンらの助けを得て、夢を実現しました。梅子は女性の地位向上こそ日本の発展につながると信じて、「男性と協同して対等に力を発揮できる女性の育成」をめざし、女性の高等教育に生涯を捧げました。

によって創設(明33)、麹町区紀尾井町に東京女子薬学校が開校します(明40)。
明治33年に女子英学塾が麹町区一番町に開校。創立者、津田梅子は女子のための英学の高等機関を作るといふ夢を叶えます。学校はのちに津田塾大学となりました。

明治の初めに千代田区域でうぶ声をあげた女子教育は、創立者の思いのこもった独自性のある多くの学校を生み出し、女性の学問への意識を自覚めさせました。当時の女性たちの学びへの熱い思いは時を超えて現代の私たちにもたしかに伝わってきます。

【主な参考文献】
千代田区女性史編集委員会編『千代田区女性史』第1巻ドメス出版(2000)
千代田区女性史サークル『時代を駆ける』第5巻(2010)
遠藤由紀子「明治大正期の女子教育者櫻井ちか・倉辻ふきに関する研究」『学苑』965号(2021)
『幕末・明治を生きた女性たち』洋泉社MOOK別冊歴史REAL(2015)

地図と年表で見る明治の女学校～千代田区編

明治期の女子教育創立の場所



明治36年の新校舎「写真集―三輪田学園百年の歩み」より

三輪田女学校



神田一ツ橋通りに落成した校舎（明29）「共立女子学園の100年」より

共立女子職業学校



明治43年頃の校舎「女子学院」所蔵・提供

女子学院



開校当時の校舎（明40）「麹町学園百周年記念誌」より

麹町女学校

- ① 東京女学校
- ② 跡見学校
- ③ 櫻井女学校
- ④ 女子仏学校
- ⑤ 明治女学校
- ⑥ 共立女子職業学校
- ⑦ 女子学院
- ⑧ 和洋裁縫女学院
- ⑨ 実践女学校
- ⑩ 女子英学塾
- ⑪ 東京女医学校
- ⑫ 三輪田女学校
- ⑬ 麹町女学校
- ⑭ 東京女子薬学校

『千代田区女性史』「明治時代の主な教育施設分布図」にあげられた50校より14校を抜粋

千代田区の地域性と女子教育

千代田区女性史編集委員会のメンバーとして『千代田区女性史』を編纂された田口香代子さんにお話を聞きました。

『千代田区女性史』の明治の女子教育の前半部分を担当しました。区の婦人学級や女性セミナーに通ったことから女性史研究へと学びが繋がりました。PCがない時代、図書館で当時の新聞をマイクロフィルムで閲覧し、カードを作って資料整理をしました。完成までの4年間、埋もれた女性の歴史を掘り起こそうと編集委員みんなで懸命に取り組みました。

千代田区域で女子教育が栄えたのは、神田・麹町区の地域性と深い関わりがあると思います。江戸期から寺子

田口香代子さん

1990年代の後半から女性史研究に取り組み、千代田区域を軸に女性史編纂に携わる。現在、千代田区女性史サークルで活動。千代田区女性史サークル編『時代を駆ける』第1～5巻に寄稿。



屋や私塾が多数開かれていたこと、維新で武家屋敷が空き家になったため、学校として使えるスペースがあったことが大きい要因だったのではないのでしょうか。神田・麹町はともに交通の要所で、人が集まりやすい場所でもありました。神田は江戸時代から商家が多く、女性も働き手であり、女性が男性に伍して暮らせる気風があったように思います。寺子屋や私塾に女塾主が多数いたことも自由に女性が学べる雰囲気につながったのだと思います。

| 創立年 | 創立時の学校名（現存する学校名） | 創立者など |
|----------------|------------------------|----------------------|
| 1872 (明治 5) 年 | 東京女学校 | 別名官立女学校、文部省が設置 |
| 1875 (明治 8) 年 | 跡見学校（跡見学園中学高等学校） | 跡見花蹊 |
| 1876 (明治 9) 年 | 櫻井女学校 | 櫻井ちか |
| 1884 (明治 17) 年 | 女子仏学校（白百合学園中学高等学校） | シャルトル聖パウロ修道女会 |
| 1885 (明治 18) 年 | 明治女学校 | 木村熊二 |
| 1886 (明治 19) 年 | 共立女子職業学校（共立女子学園） | 東京女子高等師範学校の教師たち、鳩山春子 |
| 1890 (明治 23) 年 | 女子学院（女子学院） | 初代院長 矢島楯子 |
| 1897 (明治 30) 年 | 和洋裁縫女学院（和洋九段女子中学・高等学校） | 堀越千代 |
| 1899 (明治 32) 年 | 実践女学校（実践女子学園中学校・高等学校） | 下田歌子 |
| 1900 (明治 33) 年 | 女子英学塾（津田塾大学） | 津田梅子、大山捨松 |
| 1900 (明治 33) 年 | 東京女医学校（東京女子医科大学） | 吉岡彌生 |
| 1902 (明治 35) 年 | 三輪田女学校（三輪田学園中学校・高等学校） | 三輪田眞佐子 |
| 1905 (明治 38) 年 | 麹町女学校（麹町学園女子中学校・高等学校） | 大築佛郎 |
| 1907 (明治 40) 年 | 東京女子薬学校（明治薬科大学） | 恩田重信 |

A六番女学校、新栄女学校、櫻井女学校が合併

明治薬学校に東京女子薬学校設置

『都史紀要 9 東京の女子教育』、『千代田区女性史』より抜粋



遠藤由紀子さん

福島県生まれ。専攻は幕末維新・近代史、歴史地理学（地域文化）。博士。現在、昭和女子大学歴史文化学科非常勤講師、女性文化研究所研究員。著書『会津藩家老・山川家の近代—大山捨松とその姉妹たち—』（雄山閣）、『棚倉藩』（現代書館）等。

学びは女性たちの生涯の支えになった

遠藤由紀子さんに聞く

江戸時代から続く学びの伝統
 明治期に現在の千代田区区域で女子教育がさかんだった背景は、この地域が江戸時代からずっと学びの基盤があったということにあります。神田・麹町には私塾・家塾・寺子屋が多数存在し、漢学から読み書きそろばんに至るまで、学業がさかんでした。それは、千代田区という名前が江戸城の別名千代田城から来ているように、江戸城のまわりには武家の侍たち、それを支える商人、職人などさまざまな立場の人が暮らし、神田・麹町は政治・経済の中心が近くにあり、つねに学ぶことが身近にあったのだと思います。その土台が明治維新後も受け継がれ、教育の町として栄えたのでしょう。その学びを尊ぶ伝統はいまも受け継がれ、今、この町に住み、働き

学ぶ人たちもその流れの中にいて、次の世代に伝えていく役割を担っていると考えます。
シスターフッドを心の支えに
 近代的学校制度が整っていきななかで、女性たちの学びの場が広がりました。女性たちが仲間たちと共に机を並べて学び、交流し、生涯続く友情を育てることができたのが女学校でした。彼女たちが教える先生たちも、女学生たちが成長して、それぞれの人生で幸せに生きていくように、真剣に指導をしていたと思います。そこで育まれたシスターフッドは、女学生たちの生涯の心の支えになったことでしょう。当時の写真や雑誌などの資料をみると、多くの女学生たちが学ぶことを心から喜び、楽しんでいたさまが見取れます。華やかな歴史に名を残さなくとも、彼女たちはここで得た学びを糧にして、全国各地で懸命に生きていったのではないのでしょうか。そういった女性の学びがここ千代田区で切り拓かれ、現代につながっていることはとても意義深いことだと感じられます。



エルジービーティーキュー
「LGBTQ」って？

ソ ジ
「SOGI」って？

近年、「LGBTQ」や「SOGI」という言葉が一般にも普及してきました。MIWでも令和6年度事業の一つとして「LGBTQのためのほのぼのスポット Rainbow」を年間を通じて3回開催しました。しかし、「LGBTQ」、「SOGI」という用語についてよく知らない！という人もいるのではないのでしょうか？

多様な性の在り方がある中、人それぞれの性自認や性的指向を尊重していくことが大切です。

エルジービーティーキュー
● **LGBTQ**とは

「LGBTQ」とは「レズビアン」「ゲイ」「バイセクシュアル」「トランスジェンダー」「クエスチョニング」「クィア」の頭文字を繋ぎ合わせて作られた言葉です。



レズビアン (Lesbian)

女性として、女性を恋愛・性愛の対象とする人



ゲイ (Gay)

男性として、男性を恋愛・性愛の対象とする人



バイセクシュアル (Bisexual)

恋愛・性愛の対象を男性・女性両方とする人



トランスジェンダー (Transgender)

出生時に割り当てられた性別と自身の認識する性が異なる人



クエスチョニング (Questioning)

性的指向や性自認が定まっていない、あるいは意図的に決めていない人

クィア (Queer)

非規範的(常識に則らない)な性のあり方を生きる全ての人

ソ ジ
● **SOGI**とは

「SOGI」とは「Sexual Orientation」(性的指向)と「Gender Identity」(性自認)の頭文字を繋ぎ合わせて作られた言葉です。LGBTQ当事者だけでなく、「その性別を好きになるのか／ならないのか」「自分自身をどういう性と認識しているのか／いないのか」というすべての人が持つ性的属性を指します。この言葉は性的マイノリティに限らず、すべての人に関わる概念として普及しています。

千代田区では令和5年に『LGBTQを知るハンドブック』を発行しています。関心のある方は、区役所6階国際平和・男女平等人権課窓口までお立ち寄りください。また、区HPでもご覧いただけます。



千代田区 HP

MIW相談室には、性自認や性的指向について、モヤモヤした気持ちやさまざまな困りごとを抱えている方や、家族・友人、支援者のためのLGBTQ相談があります。企業の職員の方や教育関係者の方にもご利用いただけます。



MIW 相談室



ミュウ 第12回MIW祭りを開催しました!

千代田区役所区民ホール・男女共同参画センター MIW
10月4日(金)12:00~20:00 ▶ 5日(土)10:00~14:00

『世界は変化を待っている~今、「ちよだ」から』をテーマに開催された第12回 MIW 祭り。今回もたくさんの方々にご参加いただきました。2日間に渡って MIW 登録団体に加え、地域の活動団体によるブースやステージ、展示などのイベントが開催されました。

オープニングイベント

- 明治大学マンドリン倶楽部のみなさん



マンドリンとギターの優しいメロディと、パーカッションの軽快なリズムでMIW祭りのオープニングを華やかに盛り上げていただきました!

メインイベント

- 講演会「道を切り拓いた女性法曹家たち」



千葉県女性弁護士第1号の渥美雅子さんには、弁護士になるまで、弁護士になってからの経験を、得意の講談を交えてお話しいただきました。

ドラマ『虎に翼』の法律考証を担当された明治大学史資料センター所長の村上一博さんには、ドラマ制作の裏話などをお話しいただきました。



◀ 渥美雅子さん(左)
村上一博さん(右)

男女共同参画 川柳コンテスト 受賞作品

- ◆ 大賞 柳谷益弘さん
主夫になり 定年なしの 恩返し
- ◆ 優秀賞 みなまるさん
社会でも 家でも夫婦 共働き
- ◆ 準優秀賞 まろりんさん
あといくつ 出てくるのかな 「女性初」
- ◆ みゅうじろう賞 ぱるさん
大丈夫 みゅうじろうが そばにいるよ

今年は153作品ものご応募がありました。ありがとうございます!



ブースやステージ、ワークショップなどのイベントも!



▲ 毎年恒例企画“パートナーの呼称を考えよう!”

毛糸のボンボンで
みゅうじろうを作る
ワークショップ ▼



▲ 明治大学ボランティア団体 Tree
“みんなで作ろう! エコキャップアート!”



▲ 九段労務研究会によるキャリアプラン相談

ビデオサロン

MIWビデオサロンは、申込み不要でご参加いただけます。直接会場にお越しください。

日時：偶数月、第3金曜日

① 14:30～ ② 18:30～

会場：MIW交流サロン（区役所10階）

定員：各回20名（申込み不要・先着順）

※満員の場合は、ご参加をお断りすることがあります

今後の上映予定作品

令和7年4月18日「裸足になって」

6月20日「ハッシュ！」

8月15日「風音」

MIW 相談室

4月1日から一般相談の時間が変わります

令和7年4月より、MIW一般相談の相談日や時間の変更になります。お昼休みの時間帯にも利用しやすくなりました。詳しくはMIW HPをご覧ください。

一般相談 月曜日/水曜日/金曜日 10:00～14:50
火曜日 13:00～17:50

木曜日/第1・3土曜日 10:00～12:50

法律相談 毎月第2火曜日 10:00～11:45（女性のみ）

LGBTQ相談 毎月第2・4木曜日 16:30～19:30



MIW相談室はあなたが抱えている様々な悩みや困りごとを一緒に整理し、問題解決の糸口を見つけるお手伝いをしています。夫婦やパートナー、家族との関係、働き方、ハラスメント、性に関すること、性暴力被害など、困っていることがあったら、一人で悩まずご相談ください。予約制です。（区内在住、在勤、在学の方対象）

予約専用電話 03-5211-4316



一緒に話してみませんか？



◀ MIW相談室

MIWで活動する団体を募集しています！

MIWは、男女共同参画（ワーク・ライフ・バランス、女性活躍、LGBTQなど）をテーマに活動する団体・グループを登録団体として、活動を支援しています。MIWミーティングルームやグループロッカーの貸出などを行っています。

【登録要件】

- 活動目的：男女共同参画社会に資すること
- 代表者：区内在住・在勤・在学のいずれか
- 構成員：区内在住・在勤・在学を主な構成員とした5名以上の団体
- その他：MIW祭り、MIW事業に参加すること



◀ MIW登録団体についての詳しい情報はMIW HP「団体活動支援」のページをご覧ください



みなさまからのMIW通信への感想、MIWへのご意見などお待ちしております。



◀ メールはこちらから

千代田区男女共同参画センター MIW (ミュウ)



所在地 〒102-8688 東京都千代田区九段南1-2-1 千代田区役所10階
交通機関 東京メトロ東西線、半蔵門線、都営地下鉄新宿線「九段下」駅下車、徒歩5分
開館時間 月曜日～金曜日 午前9時～午後9時 土曜日 午前9時～午後5時
休館日 日曜日、祝日、年末年始
TEL 03-5211-8845 / 相談予約受付 03-5211-4316 FAX 03-5211-8846
Eメール miw@city.chiyoda.tokyo.jp
URL https://miw.city.chiyoda.lg.jp
SNS Facebook @chiyoda.miw Instagram chiyoda.miw

■ 編集後記

「MIW通信」第56号では、千代田区で切り拓かれた明治の女子教育を取り上げました。女性史を通して女性たちが辿った道を振り返ると、あらためて学ぶことの大切さやありがたさに気づかされます。MIW（千代田区役所10階）にはさまざまな学びの情報がああります。ぜひお立ち寄りください。（S）



◀ MIW講座情報等をお送りします。メールマガジンの登録はこちらへ